

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 1 月 2 0 日

江別市立大麻中学校

1 本年度の重点目標

夢や可能性に向かってたくましく生きる生徒の育成
～自ら課題を見つけ、解決する力の育成～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	育成を目指す3つの資質・能力 ○知識・技能 「次の学習に生かされる知識・技能」、○思考力・表現力・判断力「自分の思いや考えをわかりやすく伝える力」、○学びに向かう力・人間性 「仲間とともに学習や生活を楽しむ態度」を意識して教育活動を展開していくことができたか。	A	・「働き方改革」については比較的低い評価となっている。さらに進められるよう、新年度方針や経営プログラム等で示しつつ、各部、係、学年等においても働き方改革を意識した工夫を継続していく。	A	A
	生徒の努力や長所を認め、夢や可能性に向かってたくましく生きる生徒の育成に努めてきたか。	B	・突発的な対応等については	A	A
	学校経営の重点を理解し、教育目標の達成に向けた教育活動に主体的に関わったか。	A	仕方ない面もあるが、計画的に進められる会議の設定や	A	A
	教育公務員としての職責の重大さを自覚し、勤務規律の遵守に努めたか。	A	部活動対応等については、引き続き工夫していく。	A	A
	教職員のワークバランス（仕事と生活の調和）の視点を積極的に取り入れるなど、「働き方改革」をすすめたか。	B	・学校運営協議会の様子については、都度のタイミングで紹介・周知していく。	A	A
	学年・分掌等で協力し、組織的に業務を遂行したか。	A		A	A
	職員間での報告・連絡・相談+確認がなされ、必要な情報が共有されていたか。	A	・また、学校運営協議会の持ち方自体を工夫している段	A	A

	校長や教頭との学校職員人事評価制度の面談や職員のマoral向上、メンタルヘルスへの対応に向けた相談は適切に行われたか。	A	階で、昨年度は大麻中・大麻小の同日同会場開催として一度実施し、今年度の3回目は、4校合同開催としている。少しずつ内容的にも充実が図られ、発展するものと考えられる。 ・引き続き、職員全員で、(今以上に)風通しの良い職場となるよう、全体で心がけていくことが大切。	A	A
	学校が保護者や地域に開かれ、各種たよりやHPを通じて情報発信を行ったか。	A		A	A
	PTA活動や育成会等の活動を通し、家庭・地域との連携を図ったか。	A		A	A
	生徒指導や進路指導などで、高校との情報共有や、大学など校区にある教育機関との連携に取り組んだか。	A		A	A
	コミュニティ・スクールについて理解し、本校の教育活動が地域・保護者に理解され、協力しながら教育活動をすすめることができたか。	B		A	A
教育課程・学習指導	教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の年間指導計画を適切に作成し計画に基づいた指導及び評価の工夫改善を進めたか。(カリキュラム・マネジメントの充実)	A	・旅行的行事を通じて、北大との連携やSDGsの取り組みを進め、成果が見られた。一方「学んだことを身近な活動に生かす」ということについては、不十分に思える。学年・学級の活動だけではなく、委員会活動にも生かせるように進めていきたい。 ・教育相談の総合進路については、きちんと計画して整えてきました。旅行的行事の総合を入れるなど、さらに内容を充実させたい。	A	A
	朝読書や読書啓発を通じて、豊かな心を育てる読書活動の充実にも努めたか。	B		A	A
	総合的な学習の時間の計画に基づいて、地域や社会と積極的に関わる体験活動を行い、学習の成果を効果的に発信したか。	A		A	A
	キャリア教育の視点から各教育活動の中で、生き方や正しい職業観を身につけさせる指導に努めたか。	A		A	A
	教材研究を十分に行い、工夫した教科指導を実践したか。	A		A	A
	評価規準をもとに、明確な評価方法で適切な学習評価をしたか。	A		A	A
	少人数指導およびTT、習熟度別による授業を適切に行い、成果を上げたか。	B		A	A
	身に付けさせたい3つの資質・能力を意識し教科指導を実践できたか。	A		A	A
	効果的な展示や掲示を工夫し、潤いのある環境づくりに努めたか。	B		A	A

(道徳教育) 特別の教科「道徳」の授業交流や公開を行い、豊かな心を育てる道徳指導の充実に取り組んだか。	B	<p>・今年から定期テストの放課後受験を始めた。受験する時間については学校として対応できる時間を設けて実施していきたい。生徒の実態と教員の勤務時間との関係に難しさがある。</p> <p>・ICT 活用については次年度も研修計画にしっかりと入りたい。</p> <p>・また、特に AI についても時代の流れに遅れないように研修を進めていきたい。</p> <p>・資料についてはその都度 PDF にして保存し、見返すことができるようにしていく。</p> <p>・家庭学習での AI ドリル(スマイルネクスト)の活用を推奨していきたい。</p> <p>・各家庭から使用料を負担していただいていることや、昨年よりも使いやすくアップデートされていることもあるので、各教科(5教科)で使用方法について交流し、積極的に活用していく。</p> <p>・スマホなどの使用ルールについては、適宜触れていく。</p> <p>・各部活動顧問で、時間の管</p>	A	A
(道徳教育) 道徳の教科書等を活用したり、外部講師による話を聞き、心に響く多様な指導を工夫したか。	A		A	A
(道徳教育) 道徳教育の中で、自他を大切に、互いに認め支え合う人権教育を推進したか。	B		A	A
(特別支援) 校内支援委員会(サポートミーティング)は効果的に機能していたか。	A		A	A
(特別支援) 保護者や関係機関との連携は円滑に行ったか。	A		A	A
(特別支援) 教職員の研修や情報交流を適切に行ったか。	A		A	A
指導方法や学習形態を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図ったか。	A		A	A
「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めたか。	A		A	A
ICT を活用した授業改善を進めたか。	A		A	A
教育活動の様々な場面で、コミュニケーション能力や表現力を高めるように工夫して指導したか。	A		A	A
家庭での学習習慣を定着させるように指導したか。	B		A	A
放課後や休業中に補充的な学習支援等を行い、生徒の学力向上に努めたか。	B		A	A
(研修活動) 研究主題に基づき、一人一公開授業等、実践的指導力の向上に取り組んだか。	A		A	A
(研修活動) 授業力向上のために教科部会等を活用し研修の充実に取り組んだか。	A		A	A
連絡・報告・相談+確認を徹底し、職員全体で生徒指導に取り組む体制となっていたか。	A		A	A
いじめの未然防止や早期発見に取り組み、適切に対処したか。	A	A	A	

生徒指導	不登校傾向の生徒・保護者の心に寄り添い、適切に対応したか。	A	理と平日、休日それぞれ週一回の休みの設定を徹底していく。 ・授業開始時の2分前着席により、落ち着いて授業に臨んでいる。 ・ただ、点検活動など行う場合は、実施方法について見直していくことも必要であり、教員が早めに行動することも大切。 ・諸活動の終了時刻について、16:30はあくまでも目安なので、その都度必要に応じ活動していく。 ・部活動の時間は現状のまま継続していく。夏季は、遅くても18:30までなので、適宜終了時刻を設定し、適切に対応していく。	A	A
	生徒理解のもと、集団生活の規律や安全に対する習慣形成に取り組んだか。	A		A	A
	保護者や地域社会、関係機関と連携し、問題行動を未然に防ぐ取組を実施したか。	A		A	A
	「えべつスマート4RULES」の取組を進め、携帯電話やインターネットに関する正しい使い方など、情報モラル教育の充実に努めたか。	B		A	A
	生徒会・学年・学級が連動する委員会活動を行い、生徒の創意を生かし、充実感や所属感を高める活動に取り組んだか。	A		A	A
	(健康安全教育) 災害や交通事故に対する指導とともに、危機回避能力を身につけさせる指導を工夫したか。	A		A	A
	(健康安全教育) 薬物乱用、喫煙防止等に関する指導を行い、健康に対する実践的な態度を養ったか。	A		A	A
	(部活動) 切磋琢磨し、所属感や目標達成に努力する態度を育む部活動が保護者の理解を得て運営されたか。	A		A	A
	(部活動) 北海道アクションプランの部活動時間や休養日を適切に設定することができたか。	A		A	A
事務・教育環境	施設・設備の安全・維持管理のための点検や整備に取り組んだか。	A	・西校舎2階教材室の利用については、物の整理を行う。 ・教員スマホについては、市教委のとしても現段階では導入の予定がない。	A	A
	校舎内外の清掃を徹底し、清潔な教育環境を創りだしたか。	A		A	A
	年間指導計画に基づいて食育指導を行うとともに、指導法や教材開発の工夫改善に努めたか。	B		A	A
	課題に対応した効果的な予算編成が計画され、職員の理解のもと、執行が進められたか。	B		A	A
	諸事務は適切にすすめられ、制度の周知に基づくコンプライアンスの確立に寄与できたか。	A		A	A
	子どもの貧困対策としての就学保障制度の理解	B		A	A

	を進めることができたか。				
小 中 一 貫 教 育	各々が組織的に校区小（中）学校と連携しながら小中一貫教育を進めているか。	A	・教育課程部会に小学校の教務の先生が入れるよう、各小学校での役割分担をお願いしていく。	A	A
	生徒が「生活の8箇条」、「学習の7箇条」を身につけられるよう指導しているか。	B		A	A
	新入生が環境の変化に柔軟に適応するような取り組みができていますか。	B		A	A
学 年 経 営	学校の教育目標、学年目標、生徒に身に付けさせたい3つの資質・能力を意識し、その実現に向けて実践したか。	A	・授業と家庭学習の取組につながりを持たせ、取り組みが力がついていくという実感を持たせられるようにしていく。	A	A
	学年部会は適切に開催されたか。	A		A	A
	学年の業務分担に基づいて相互の連携・協力のもと業務を遂行したか。	A		A	A
	学年で意思統一して全員で生徒の指導にあたったか。	A	・生徒たちの対話の時間を作ってとにかくチャレンジさせ、教師側も上手いかわくても見守るくらいの気持ちでサポートすることが必要。	A	A
	学年行事・集会は、学年委員会組織を生かし、有効かつ適切に実施したか。	A		A	A
	特別な支援を必要とする生徒を把握し、適切な支援・指導を行ったか。	A		A	A
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は、さまざまな難しさがあるから、地道に時間をかけてやっていくしかない。一気に進まないのも仕方ないから、今のままの取組でいいのではないか。 定期テストの放課後実施は、子どもたちのことを考えるのも大事だが、一方で働き方改革を意識することも大事。バランスを考えることが大切。 働き方改革が、子どもへの弊害になってはいけない。そのことを先生方が一番わかっている。だから難しい。 部活動の地域展開が目標通りに進めば、これもやはり働き方改革につながるはず。 中間評価より数値がよくなっている。先生方の取組が正しいからだと感じられる。 					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない